

特別の教科道徳の授業に参加することが難しい子どもがいます。どのような支援ができるでしょうか。

それでは、学習の流れに沿って、考えてみましょう。想定した支援が、実際には有効でない場合もありますが、教師が構想しようと努力することで、支援を図る力を蓄えていくことが大切です。

道徳科で求められる質の高い学習指導過程(例)

導入

主題に対する興味・関心を高める
動機付けを図る

教材によって道徳的価値の理解を図る

道徳的価値の意味や大切さを理解する

考え、議論する道徳
=道徳的価値についての「深い学び」

価値理解

他者理解

人間理解

展開

道徳的価値を自分のこととして捉える

これまでの自己の状況を見つめ、課題を培う

自己との対話を多様にする
=自分についての「深い学び」

自己理解

終末

思いを温めたり
考えをまとめたりする

【価値への方向付け・教材への方向付け】

- 具体物や写真の提示、イラストなどを示して関心を高める。
(例)「みんなで使うものってどんなもの?」と問い、児童の身近にある共用物の写真をいくつか示す。

【教材提示】

- 教材を読むことに対して集中力が続かない。
 - 場面絵、ICTでの提示などにより可視化する。
 - 範読後に、場面絵などを活用してあらすじを確認する。
(例)補助として準備したホワイトボードに、登場人物や主な様子、セリフを貼って整理する。
- 他のことに興味がうつりやすい。
 - 教師の範読後は教科書を閉じて、言葉探しやよそ事をしにくい環境にする。

【指示や発問】

- 短い言葉で簡潔に伝える。
- キーワードは板書するなどして可視化する。
- 当該児童・生徒へ(集中を促す)合図を送る。
- 当該児童・生徒を適宜見ながらゆっくり話す。

【人物の心情把握】

- 場面絵を見るときに、マークを付けたり余分な絵を隠したりして、主人公や考えたい人物を焦点化する。
- 縮小した場面絵を机上に置き、集中できるようにする。
- 人物の絵に吹き出しをつけ、その中を考えるように促す。
- 役割演技により臨場感を出し、状況を可視化する。
- ワークシートやタブレット端末上に心情を表す文言や顔マーク(喜び、悲しみ、怒り、迷い等)をいくつか示し、選択を促す。

【ワークシート】

- 罫線だけでなくマス目を付けることも考慮する。
- 実態に応じて、書くことにこだわらず、発表を重視する。

【中心発問】

- 価値理解を図る場面で、道徳的価値の意義やよさを話し合うことが難しい。
 - 「主人公に大切なことを教えてあげよう。」などの発問に替える。

【振り返り】

- 自己を見つめる場面で、経験の想起が難しい。
 - 具体的な場面を言葉、イラスト、写真等でいくつか例を示し、それぞれに◎○△を記入して振り返られるようにする。

個別の支援に際しては、本人の思いを考慮することが大切です。「今度の道徳の学習では、○○を考えたり、自分の意見をまとめたりすることがあります。あなたにもぜひ活躍してほしいと思っています。そのために、あなたには□□を用意して楽しく学べるようにしたいと思っていますのですが、どうですか。こうしてほしいという希望があったら教えてください。」などと、学習方法について話し合うことが望ましいです。自尊心を傷つけたり、意欲をなくしたりすることのないように配慮しましょう。